

主日礼拝

2015年10月4日(日)

三滝グリーンチャペル

郡 美矢

お父さんは待っているよ

ルカ 15:11～32

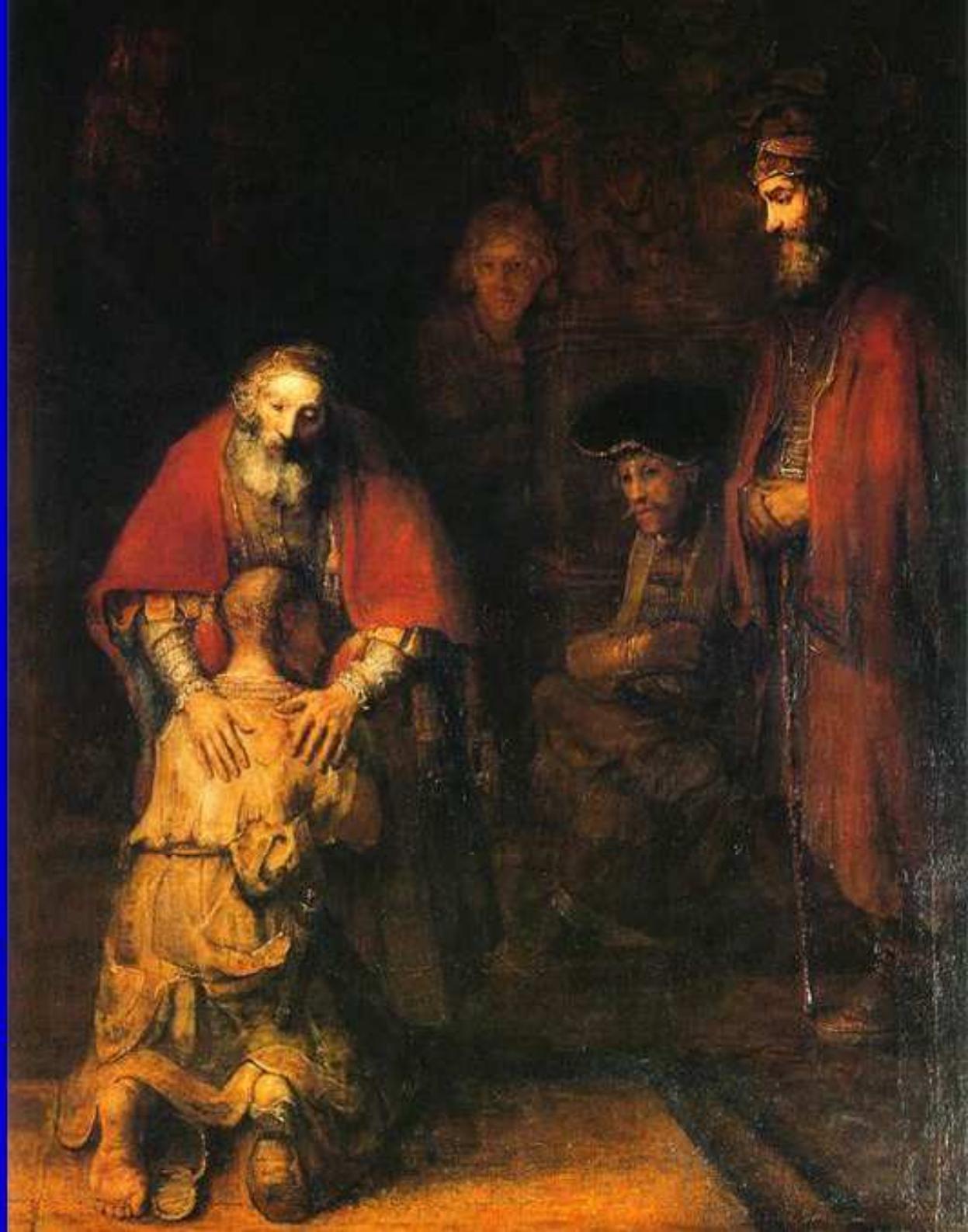
待っている父のたとえ話

第1コリント 13:13

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大きいなるものは、愛である。

放蕩息子の たとえ話

レンブラント
『放蕩息子の
帰郷』



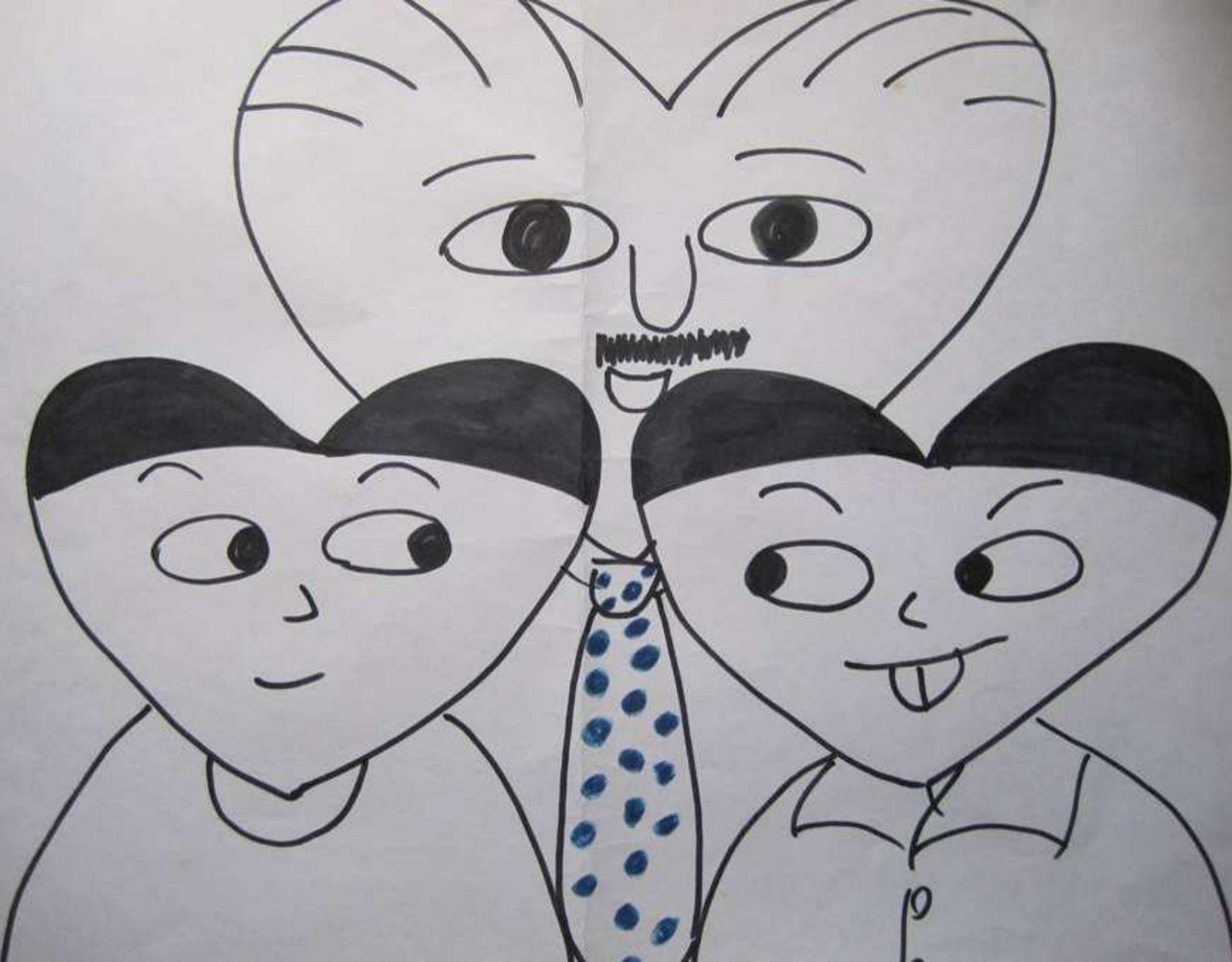
遊びほうけて勝手し放題に暮らした弟息子が悔い改めて父の家に帰る話しさは有名ですが、今回はまじめに働いてきた兄息子の話をします。はたして兄息子は「戒めを破ったことは一度もありません」というほどまじめだったでしょうか？ご一緒に考えてみましょう。

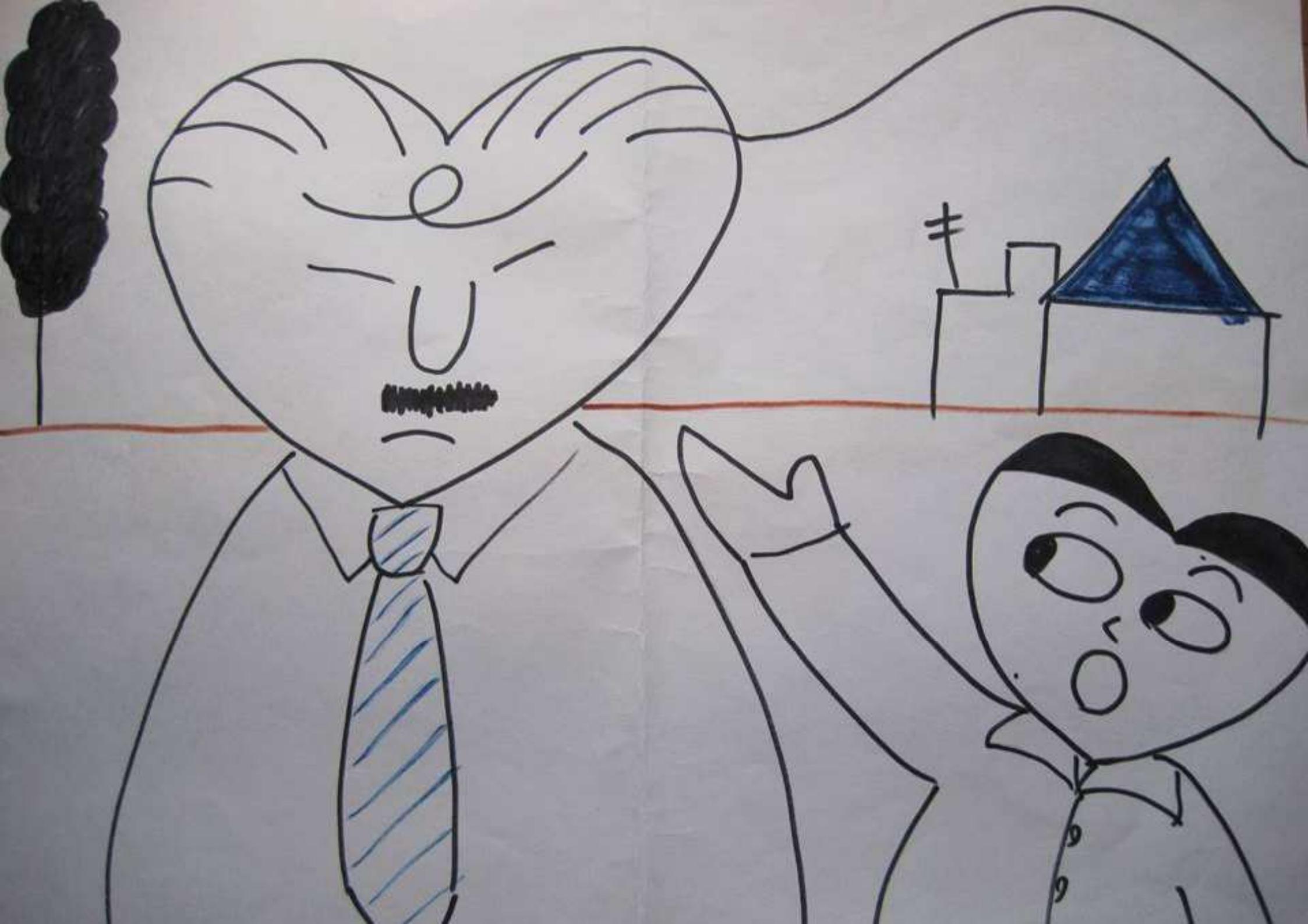
ルカ 15:1～3

1. 徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。
2. すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いました。
3. そこで、イエスは次のたとえを話された。

放蕩息子(ほうとうむすこ)

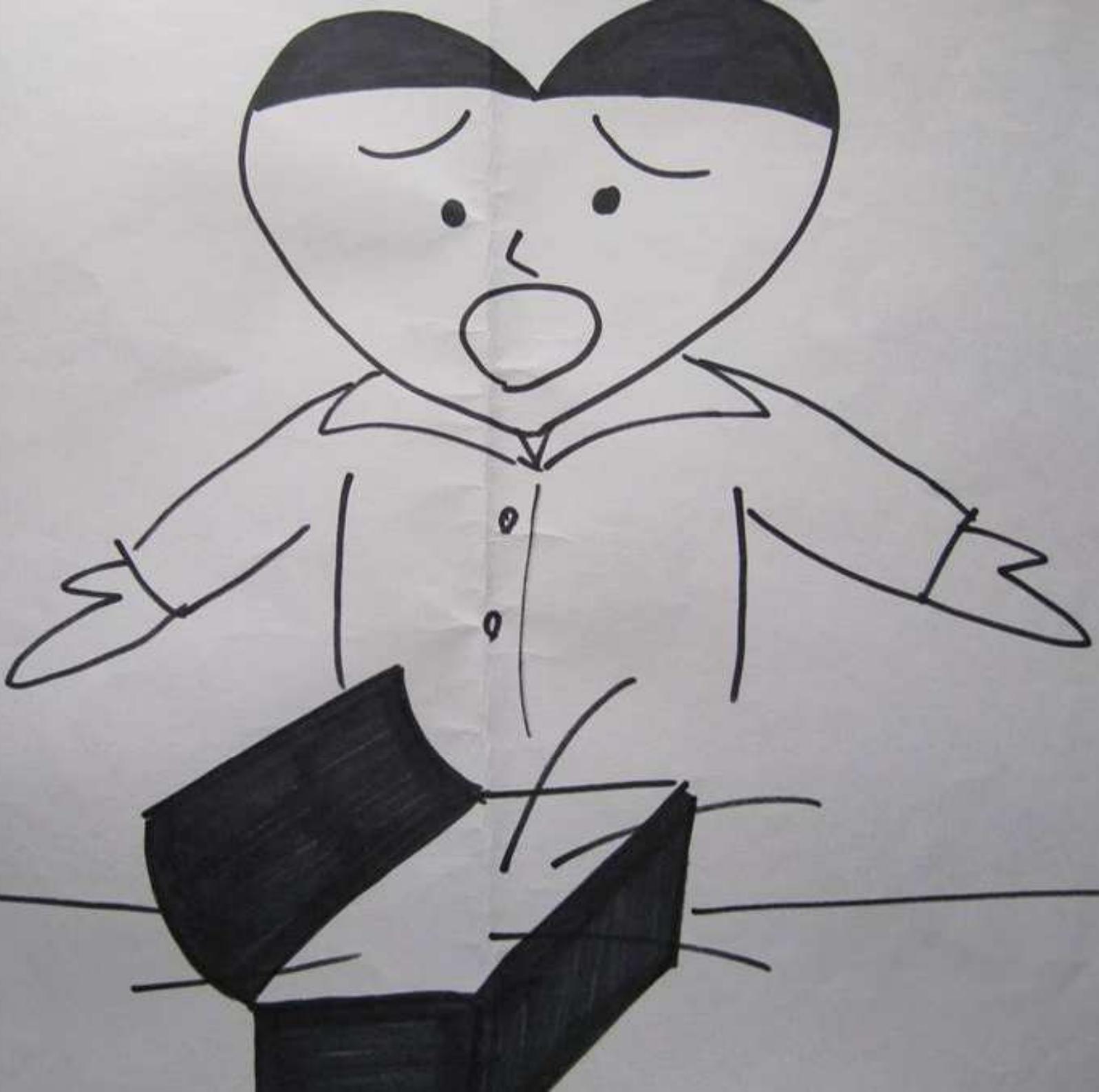


















ルカ 15:25～32

25. ところで、兄の方は畠にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。
26. そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。
27. 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』
28. 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。

29. しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかつたではありませんか。

30. ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠つておやりになる。』

31. すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。』

32. だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』』

「このとおり(ご覧なさい)」(29節)

普通なら最初に「お父さん」という呼びかけがありますが、そこにはありません。

兄息子はいきなり「このとおり」
新改訳では「ご覧なさい」と言いました
兄は不満だらけ。父に対する尊敬と
親愛の情がない。

長男の役割の放棄

「あなたのあの息子」(30節)。

弟を「私の兄弟」とは言わずに、

「あなたのあの息子」と呼んでいる。

私なんかどうせしもべなんですから。

自分はあなたの息子(弟)とは無関係。

兄息子は自分が父の息子であることも否定しました。

「放蕩息子のたとえ話」は、
待ち続ける父の愛のたとえ話

この宴会は、和解／シャロームを
創り出すための父親の愛が実つ
たことを祝う宴会です。

あなたは神様が用意して下さった
大祝宴会に加わりますか？